

## あらすじ

八尾を元氣にする対象とします。大阪府と奈良県の県境に接する位置にある八尾市は都会過ぎず、田舎すぎず丁度いい過ごしやすい街です。しかし、八尾といえばの場所はあまりなく、観光地としての場所もないため八尾に盛り上がり、元気があまり見られません。そこで気になるのが八尾には「漏れ」が潜んでいます。

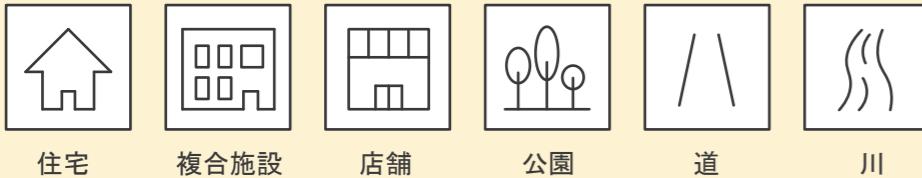
## 八尾の漏れ

現代、加速を続けるインターネット社会や数年前に世界中に流行したコロナ禍など、様々な理由で家にいることが増え、人との直接的な関わりが少なくなっているように感じます。プライベート空間で過ごすことが増えることで、パブリック空間で過ごす機会が以前に比べて減ったようにも感じます。また、プライバシーのために内と外との視線が遮られたり、カーテンで閉ざされたり、少子高齢化のために空き家が増えたり、商店街はシャッター街と化したりなど、地域コミュニティの形成も難しくなり、プライベート空間とパブリック空間が断絶され、つながり自体も無くなっているように感じます。これらのような状態は個々(家や世帯)で元気になることは可能ですが、まちは個々(家や世帯)の集まりであるので、まち自体が元気になることは不可能に近いです。

つまり、プライベート空間とパブリック空間がつながること、言い換えるとそれらの境界線を曖昧にすることこそがまちを元気にするひとつの方法です。そのプライベート空間とパブリック空間の境界線を曖昧にすることこそが「漏れ」です。プライベート空間からの様々な類の「漏れ」がパブリック空間に滲み出ることでそれらの境界線が曖昧なものとなり、まち全体の境界線も曖昧になり元気へと向かっていきます。プライベート空間からの「漏れ」には光や音、匂い、物理的な漏れなど様々な種類があります。「漏れ」は人が活動することによって滲み出るものであり、それが他者にも伝わることで活気を感じやすくなり、「漏れ」がきっかけを与えることで元気へとつながっていきます。

「漏れ」が減ってきている近年に対して、この提案ではまちに「漏れ」をつくり、誇張したり、可視化したりすることでもちを色付けし、肉付けし元気にします。

## 場所



# — やお漏らし —

Yao × Leakage



## 操作



## 元気



## 漏れの正体

はみ出しているものや飛び出しているものなど境界線を超えているもの、曖昧にしているものを「漏れ」とします。

## 商業の漏れ



## 生活の漏れ



## 自然の漏れ



## 光の漏れ



## 水の漏れ



## 情報の漏れ



## 治安の漏れ



